令和８年度　　小平第三中学校　授業改善推進プラン

社会科　１年生

１　日常の学習状況について

社会科の学習に対して関心が高く、学ぼうとする意識の高い生徒が多い。しかし、定着状況の個人差が大きい。個人の学習段階に大きな差異が見受けられる。単元ごとに振り返る機会を多く設けている。また視覚資料に工夫をもたせることを授業の中で心掛けている。

２　期末考査等の結果を踏まえて

（１）世の中の出来事と社会科の学習につながりをもち考えることができる生徒がまだ少ない。

（２）知識を問う、短答式の問題は家庭学習や授業での反復学習により定着度が高い生徒と、学習習慣が確立できていない生徒に分かれる。

（３）思考・判断・表現を問う、記述式や選択式の問題や技能を問う問題に関しては生徒により理解度に大きな差が見られる。

３　学力に関する状況

以上のことから本校の現１年生の社会の学力については以下のような傾向が見られる。

（１）授業に取り組む姿勢は高いが、定着状況の個人差が大きい。

（２）資料を活用して、課題を解決しようとする力について、更なる働きかけや資料の読み取り方を工夫させる必要がある。

４　教科の課題

（１）学習面

基礎基本的な知識の取得及び学んだ知識を活用する力を身に付けさせること。
生徒間の理解度の差を小さくできるように、個に応じた指示や課題の提供を行う。

（２）指導面

生徒が興味をもって学習に臨めるために視聴覚教材を工夫すると同時に、演習問題を通じて、知識の活用を図れる機会を設ける。

５　授業改善について

（１）学習面

・知識技能の拡張を図ることができるような、反復学習ができる教材の提供を行う。
・自身が得た知識や情報をまとめることができるような表現の場、若しくは課題を定期的に設ける。

（２）指導面

・毎時間視聴覚教材を使うように努力し、定期的に生徒の学習習熟度を確認するためのテスト(コンテスト)を一年間継続して行う。

・レポート作成や調べ学習を行い、自分が調べたことを自分の言葉でまとめ発表するなど一ヶ月に１回以上、グループ学習を授業で取り入れて、主体的に授業に臨むことができる場を設ける。

６　成果の確認

この「授業改善推進プラン」の成果については、令和８年度末に以下の方法で評価する。

（１）単元ごとに習熟度を確認できる復習プリントの活用と、コンテストの実施を行う。

（２）日々の学習と定期考査のつながりをもたせ、その後に結果の考察・改善を行う。

（３）生徒の授業評価を受けて、多くの生徒が分かりやすいと答えている一方、試験結果成績に結び付いていない生徒をしっかりと把握できるように生徒の理解度のチェックを単元ごとに行っていく。

（４）適切な評価基準の中で、生徒の意欲伸長につながるような教材の工夫、特に視聴覚教材の充実につなげていく。

令和８年度　　小平第三中学校　授業改善推進プラン

社会科　２年生

１　日常の学習状況について

地理的分野の学習においては、写真を見て気が付いたことを発言したり、ある問いに対して自分の意見を書いたりといった活動に積極的に取り組む生徒が多い。また、歴史的分野の学習においては、資料から歴史的事象を読み取る学習活動にも積極的に取り組んでいる。

地理的分野・歴史的分野に共通して言えることとしては、社会科に対する興味・関心が高い生徒とそうでない生徒との間で、ワークシートや定期考査における思考を問う発問への取り組む姿勢や、小テストの得点などに大きな差があることなどが課題である。適宜、机間指導や声掛けを行うことで、授業中の学習意欲の差を縮めていくことが必要である。また、地理の授業終了 10 分前に行うロイロノートのクイズ機能については、積極的に取り組む様子が見られるため、今後も積極的に活用していく。

２　定期考査等の結果を踏まえて

・４つの文章から正しいことを述べているものを選ぶ問題の正答率が低かった。
・歴史的分野の試験範囲が狭かったため、積極的に取り組む様子が見られた。

３　学力に関する状況

・知識を問う短答式の問題については、学習意欲があり定着度が高い生徒と、学習習慣が確立できていない生徒で正答率に差が表れている。
・思考・判断・表現を問う、記述式や選択式の問題については、生徒により理解度に大きな差が見られ、知識を問う問題と比べて正答率も低い。

４　教科の課題

・授業や家庭学習で得た知識を用いて、主体的に表現する機会を設けることができなかった。
・思考力・判断力・表現力を問う問題の正答率が低かった。
・グループワークに参加できない生徒がいた。
・各章終了後に課題として出す「まとめシート」のフィードバックを行うことができなかった。

５　授業改善について

７月に行った授業評価アンケートの結果を参照する。

・授業の狙いや流れがはっきりしていて見通しが持てる。
　そう思う…78%　ややそう思う…21.6%　その他…1.4%
・授業規律が守られ、授業に集中できる環境が整っている。
　そう思う…76.7%　ややそう思う…20.7%　その他…2.6%
・授業内容の指示・説明がわかりやすい。
　そう思う…74.1%　ややそう思う…24.6%　その他…1.3%
・意欲的に取り組めるような授業になっている。

そう思う…75%　ややそう思う…23.3%　その他…1.2%

・板書やプリント、ICT 機器の活用などが工夫され、理解が深まる。

そう思う…86.2%　ややそう思う…12.5%　その他…1.3%

これらの結果も踏まえながら、学習面、指導面における授業改善案を考えていく。

（1）学習面

・各章の授業が終了した後、まとめシートを作成する機会を設ける。

・得点が低い生徒には適宜、個別の声掛けを行うようにする。

（2）指導面

・授業評価アンケートの「授業規律が守られ、授業に集中できる環境が整っている。」について、昨年度の「そう思う…64%　ややそう思う…31%　その他…5%」から「そう思う…76.7%　ややそう思う…20.7%　その他…2.6%」へと向上した。これは、発言や話し合いなど、生徒が積極的に話をする機会と、教員の話や説明を聞く機会とをしっかり分け、授業中のメリハリが持てるように指導したことによるものだと思われる。また、誰かが発言しているときには、話をせずに聞くように促している。これらのことをこれからも続けていきたい。

・授業評価アンケートの「授業内容の説明・指示がわかりやすい」に「あまり思わない」「思わない」と答えた生徒の合計が、昨年度の 3.8%から 2.5%減り、1.3%へと変化した。社会科は、地図帳と教科書、スライドの図などを用いるため、複雑であったり、抽象的であったりする指示を出すことも多い。そのため、指示を明確にして、学習環境の整備を徹底したり、複雑な指示は繰り返したりといった工夫を重ね、より良い結果を目指していきたい。

６　成果の確認

（1）定期考査・小テスト・日々の授業などにより、生徒の到達度を図る。

（2）地図等の資料を読み取る力、そこで得た知識を活用する力が育成できたかどうかを、定期テスト等で確認する。

（3）生徒の授業評価を受けて、授業内容の確認と改善を行う。

令和８年度　　小平第三中学校　授業改善推進プラン

社会科３年

１　日常の学習状況について

社会科の授業に意欲的に参加をする生徒が多く、授業中の挙手や発言も多い。１学期の期末考査では、基本的な知識・技能を問う問題の正答率が高く、授業にしっかりと励んでいる成果が出ている。しかし、ワークシートの思考を問う発問では、頭で考えていることを文章にしたりするのが苦手で記述ができなかったり、期末考査の「思考・判断・表現」の問の正答率は、「知識・技能」の問の正答率と比べて十分とは言えない。図表やグラフなどの資料を読み取り、社会的事象について説明する力を育むとともに、グループワークをたくさん取り入れて、社会的事象について多面的・多角的に考える機会を多く設けて、思考力・判断力・表現力を高めていけるようにする必要がある。

２　授業アンケートの結果について

７月に授業アンケートを実施し、以下の項目に対して「そう思う」「ややそう思う」「あまり思わない」「思わない」の４択で回答をする形式で行った。（以後、「あまり思わない」「思わない」は「他の割合」と併せて表記）

（１）授業規律が守られ、授業に集中できる環境が整っている。

・「そう思う」：８６．３％　・「ややそう思う」：１１．７％　・他の割合：２．０％

（２）授業のねらいや流れがはっきりしていて見通しがもてる。

・「そう思う」：８７．３％　・「ややそう思う」：１０．７％　・他の割合：２．０％

（３）授業の説明がわかりやすい。

・「そう思う」：９０．４％　・「ややそう思う」：７．１％　・他の割合：２．５％

（４）意欲的に取り組めるような授業になっている。

・「そう思う」：８８．８％　・「ややそう思う」：９．１％　・他の割合：２．１％

（５）板書やプリント、ＩＣＴ機器の活用などが工夫され、理解が深まる。

・「そう思う」：８６．３％　・「ややそう思う」：１１．７％　・他の割合：２．０％

３　授業アンケートの結果をふまえた授業改善の計画

（１）指導

① 授業のねらいをはっきりと理解していない生徒が多く見られる。ねらいが明確に分からないと「今、何を学んでいるのか」ということが曖昧になってしまう。導入を工夫し、本時の授業に対する興味・関心を高められるようにする。

②「板書やプリント、ＩＣＴ機器の活用などが工夫され、理解が深まる」という項目に課題があることが分かった。授業中にＩＣＴ機器を効果的に活用し、学習内容が定着できるようにしていく。

③ 難しい語句の意味や思考を問う発問に関する説明を理解しきれていない生徒が多い。ＩＣＴ機器等を効果的に活用して生徒の理解を深めたり、思考力・判断力・表現力の育成につなげられるようにする。

④ 言語活動等を定期的に取り入れ、社会的事象に対する自身の考えを説明したり、他者の考えを聞いたりすることで、深い学びにつなげ、主体的に学習に取り組めるような授業にする。

（２）評価

① 学期ごとに適宜アンケートを実施し、授業の満足度を理解した上で授業を実施する。

② 授業アンケートの結果と授業力の６要素である「使命感・熱意・感性」「児童・生徒理解」「統率力」「指導技術」「教材解釈、教材開発」「指導と評価の計画」の授業力分析シートを定期的に活用し、自己の日々の授業を振り返る。

４　授業に関する状況

授業は、ワークシートとＩＣＴ機器を活用しながら、単元に関する基礎的な事項を調べる活動を行って知識を整理させることと思考を問う問題を織り交ぜながら進めている。しかし、アンケートの結果からも分かるとおり、ＩＣＴ機器を効果的に活用できていない状況があるので、その点を意識して今後の授業づくりに励む必要がある。興味・関心がもてるような教材や豆知識を提供し、主体的に授業に取り組む態度を養っていけるようにする。語句などの知識を問う質問には多くの挙手や発言が見られるが、思考を問う問題になると挙手や発言がかなり少なくなる傾向がある。自身の考えに自信をもって表現できるような指導も心がける必要がある。

５　教科の指導上の課題

（１）学習面

複数のグラフや図などの資料を活用して社会的事象について考える力や、頭で考えたことを文章にできるようにする指導が必要である。

（２）指導面

① 単元見通しシートや社会的事象に対して自身の考えを十分に記入することができない生徒が多い。より分かりやすい授業の実践に努める必要がある。

② 個に応じた指導がまだまだ不十分であるので、机間指導をより丁寧に行う。

６　成果の確認

（１）定期考査において知識・技能の定着度を確認する。

（２）小テストを定期的に実施し、基礎的な知識・技能を少しずつ身に付けられるようにする。

（３）単元見通しシートやワークシートの記述を基に社会的事象に対してどのような考えをもち、それをどのように適切に表現しているのかを確認する。

（４）生徒の授業アンケートや授業力分析シートを有効に活用する。

（５）業者の学力テストにおいて、生徒の学習成果を把握する。